

「食道疾患レアケース・アトラス」

日本食道疾患研究会 編集

前東京医科歯科大学教授

遠 藤 光 夫

第52回日本食道疾患研究会(1998年)を主催した当番世話人の小泉博義先生が、主題の1つに「見て良かった稀な食道疾患」を取り上げられたところ、全国から110余題の演題応募があった。いずれも1施設ではなかなか経験することのできない大変珍しい興味ある疾患ばかりであった。本書はその研究会の発表演題の中から、貴重な疾患であり、しかも画像のすばらしい58題を厳選しアトラスとしてまとめたものである。

本書を開くとき、中心となって編集を担当された小泉先生はじめ、編集に携わった先生方の食道疾患の診療に対する情熱が強く伝わってくるようである。

頁を開いてまず感じることは、名前は聞いたことがあっても実際にはあまり経験したことのないまれな、しかも貴重な症例が、鮮明な画像で極めて demonstrative に紹介されているということである。各症例とも、その食道X線造影写真、内視鏡写真、病理標本の写真といずれも大変鮮明で、要点をよくとらえていて、丁寧な説明文とともに専門家でなくても十分に理解できるところである。更に各症例の簡単な病歴、その疾患の解説および参考文献も付記されており、疾患の把握も容易で、ア

トラスと言うより“眼でみるテキストブック”という印象である。食道のこのような疾患は、理屈ではなく、本当に一度見たら忘れないというものが多く、この意味でも本書は資料のすべてを最も良い状態で保存した貴重な疾患症例集である。

本書には良性疾患35例と悪性腫瘍23例とが収められている。良性疾患では先天性疾患として食道異所性皮脂腺、dysphagia lusoria、Alport-leiomyomatosis 症候群、成人先天性食道気管支瘻などが、良性腫瘍としてリンパ管腫、海綿状血管腫、平滑筋腫のほか食道ポリープ(fibrovascular polyp)の症例も示されている。食道結核やサイトメガロウイルスによる独特な食道潰瘍も掲載されている。機能的疾患としてアカラシアの特殊な型も興味があるが、本書の表紙にもなっている nutcracker esophagus は、食道X線造影所見とともに内視鏡所見も最も印象的である。食道偽憩室症のX線、内視鏡の画像も珍しく、また大動脈瘤との食道瘻は、私自身もまれに経験していて、内視鏡検査を初回から行う際に頭に入れておく所見であろう。食道の天疱瘡、潰瘍性大腸炎と食道病変、炭粉沈着症などもまれで、他疾患との鑑別に取り上げられるもの

であろう。

悪性腫瘍では、発生部位がまれな癌腫や形態に珍しいものが収められ、少ない頻度の組織型(腺癌、粘表皮癌、未分化癌、腺様嚢胞癌、内分泌細胞癌、癌肉腫、悪性黒色腫など)の症例が示されている。非上皮性悪性腫瘍(肉腫、悪性リンパ腫)や乳癌の食道転移や食道カルチノイドなど扁平上皮癌との鑑別診断上問題となる症例が示されている。

以上紹介したように、本書では珍しい貴重な食道疾患が58例収められていて、各症例ごとに鮮明な画像と解説とが付されている。テキストブックの内容で、しかも1例ずつ完結する形で、大変読みやすく、珍しい症例を容易に把握できるように企画されている。消化器病の診療に携わる内科医、外科医、また、食道関係の胸部外科医、気管食道科関係の医師にぜひ一読をお薦めしたい書である。また症例を重ねたベテランの専門医がまだ経験していないまれな疾患を知るためにも、大変便利な書でもある。

● A4 頁240 図5 写真237
カラー写真456 色図3 表6 1999
定価(本体24,000円+税) ¥400

医学書院 刊 ☎ 03-3817-5657